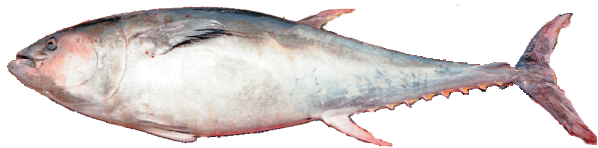


大西洋クロマグロ 東大西洋

Atlantic Bluefin Tuna, *Thunnus thynnus*



利用・用途

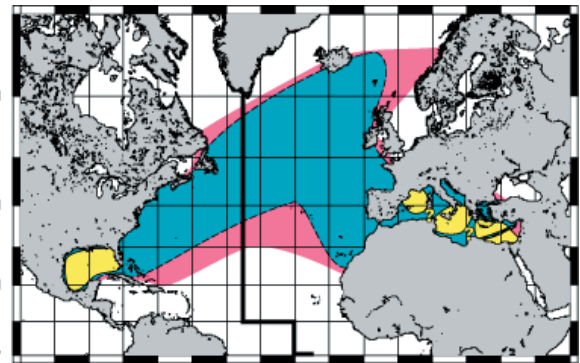
すし、刺身

管理・関係機関

大西洋まぐろ類保存国際委員会 (ICCAT)

最近一年間の動き

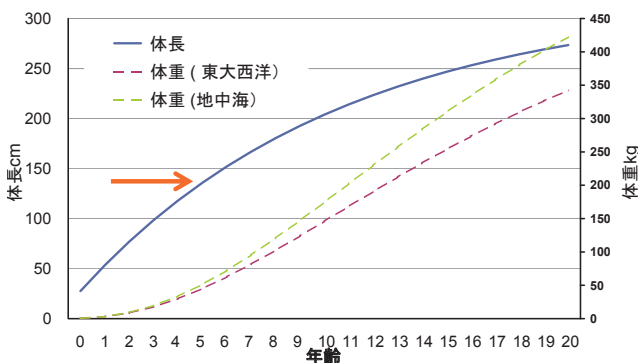
2007年のICCATに報告済みの漁獲量は約32,400トンであった(2008年9月25日時点)。一方、科学委員会は、報告された漁獲量は過小であり実際の2007年の漁獲量は最大で約61,000トンであったと推定している。2008年11月に開催されたICCAT年次会合では2009年以降3年間の漁獲割り当て量を、22,000トン、19,950トン、18,500トンにそれぞれ決定した。



大西洋クロマグロの分布域(赤)と主要漁場(青)、産卵場(黄)。縦太線はストックの東西の区分。索餌場は産卵場を除く分布域

生物学的特性

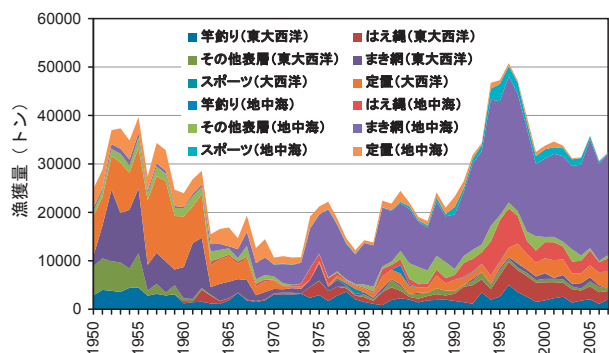
- 寿命：25～30歳
- 成熟開始年齢：4～5歳
- 産卵期・産卵場：6～8月、マジョルカ島からシチリア島にかけての地中海
- 索餌場：地中海、ビスケー湾等、北緯35°以北の北大西洋
- 食性：魚類、甲殻類、頭足類
- 捕食者：まぐろ・かじき類、さめ類、海産哺乳類



大西洋クロマグロ(西系群)の年齢あたり体長と体重、矢印は成熟体長(130cm)を表す

漁業の特徴

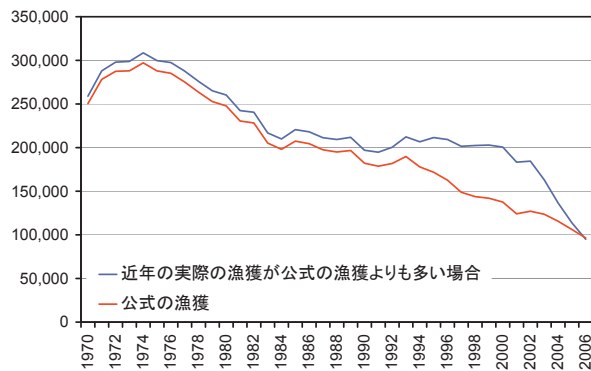
主な漁業国はスペイン、フランス、日本、イタリア、モロッコ、トルコである。日本ははえ縄、スペインは定置網と釣り、フランスはまき網、イタリアは定置網とまき網で漁獲を行っている。東大西洋と地中海では小型魚も多く漁獲されており、特に後者の水域で漁獲量が多いが、正確な統計は得られていない。



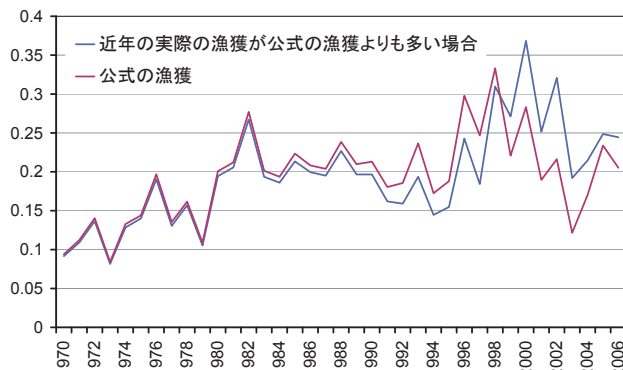
大西洋クロマグロ(東系群)の漁法別海域別公式漁獲量の推移(1950～2007年)。2007年の漁獲量は、未報告の国がある他、過小報告もあると考えられている。

漁業資源の動向

2007年のICCATに報告済みの漁獲量は約32,400トンであった（2008年9月25日時点）。一方、科学委員会は、報告された漁獲量は過小であり実際の2007年の漁獲量は最大で約61,000トンであったと推定している。



推定された親魚量、赤は公式の漁獲量を用いた場合、青は近年の実際の漁獲が公式の漁獲よりも多かった場合



1～5歳（左）および8歳以上（右）の漁獲死亡率。赤は公式の漁獲量を用いた場合、青は近年の実際の漁獲が公式の漁獲よりも多かった場合

資源状態

近年、全年齢（特に大型魚）の漁獲死亡率が大幅に上昇しており、親魚資源量は継続して減少している。資源水準は低位で、減少傾向にある。

管理方策

TACは28,500トン（2008年）から2009年には22,000トン、2011年には18,500トンまで削減。他の規制は、まき網、蓄養へのオブザーバ制度の導入を含む管理強化、禁漁期の設定、魚群探査用の航空機利用の禁止、30kg以下の小型魚の採捕等禁止、漁獲証明制度等がある。

資源評価まとめ

- 資源評価はICCATの科学委員会で実施
- VPA-2BOXにより資源評価
- 不確実性は大きい資源水準は低位・減少傾向

資源管理方策まとめ

- 漁獲割当量は2009年から2011年までの漁獲可能量を、それぞれ22,000トン、19,950トン、18,500トン
- 東大西洋及び地中海のまき網漁業の禁漁期設定、東大西洋の一部と地中海のはえ縄の禁漁期設定
- 蓄養の管理強化
- 30kg以下の小型魚の採捕等を禁止
- 漁獲証明制度（CDS）

大西洋クロマグロ（東大西洋）の資源の現況（要約表）

資源水準	低位
資源動向	減少
世界の漁獲量（最近5年間）	3.1～3.6万トン 平均：3.3万トン (2002～2006年公式漁獲量) 6.1万トン（科学委員会が推定した2007年の最大漁獲量）
我が国の漁獲量（最近5年間）	2.5～3.0千トン 平均：2.8千トン